

櫻の子



2月号 (令和4年2月1日)

児童数 559名

川越市立大東東小学校



春の訪れを感じよう —節分—



もうすぐ立春。暦の上では春となりますが、朝の冷え込みが厳しい日はまだ続いています。寒さに負けず子供たちは元気いっぱい過ごしております。学校では、引き続き感染予防対策を行っております。ご家庭におかれましても、健康観察を続けていただき、発熱等の体調不良者がいる場合は登校を見合わせていただきますようご協力お願いいたします。

2月3日は、節分です。節分とは、季節の分かれ目を指し、もともとは、立春、立夏、立秋、立冬の前の日を言いました。今では、豆まきの風習が残っている2月の立春の前の日だけと言うようになりました。立春とは、春がたつと書きます。はじめての春の気配が現れるという意味です。旧暦では、このころが1年の始まりでもありました。まだまだ寒い日々が続く時期ですが、日差しの強さに春の訪れを感じ始める頃でもあります。

節分には、昔の家庭では、柵の枝にイワシの頭を焼いたものをさし、門の戸にはりつけました。季節の変わり目に邪気(悪い気)が入りやすいとされていたので、それを追い払うためにこのような飾りをつけたり、大豆のいったものをまいたりしました。今でも豆まきの風習は残っていて、皆様のご家庭でも行うのではないのでしょうか。そして、豆まきの後、自分の年より1つ多くの豆を食べます。最近では、恵方(幸運を招く方角)を向いて太巻きをまるかじりする関西の風習も人気です。

学校でも、お話朝会で節分について話をしました。全児童にどんな鬼を退治したいか事前に尋ねてみました。多かったのは、「忘れんぼ鬼」「面倒くさがり屋鬼」でした。また「宿題を後回しにしてしまう鬼」「魚嫌いの鬼」「歯磨きを集中してできない鬼」など具体的で大人では思いつかないような表現している子も多く見られました。全体を通して、自分のことをよく理解し、よく考えていることが伝わります。自分を振り返るよい機会となりました。悪い鬼は、自ら追い出し新しい気持ちで春を迎えたいものです。

春は、もうすぐそこまで来ています。健康に気を付けて一年のまとめである三学期を一日一日大切に過ごしていきたいと思えます。

学校評価への協力、ありがとうございました！



今年度も学校評価へのご協力ありがとうございました。今年は、初めてメールによる回答方式としましたが、多数のご意見をいただくことができました。具体的な数値などの結果や対応は、別途手紙にてお知らせさせていただきますが、概ね学校生活にご理解をいただいていることが嬉しく励みとなりました。今後も教職員一同、よりよい教育のために力を注いでいきたいと思えます。

具体的なお意見も真摯に受け止め改善に努めます。今回、「コロナウィルス感染症対策による学校行事の在り方」について多数のご意見をいただきました。保護者や地域の方々が、学校の様子が見られる機会が少なかったり中止や変更となったりしている現状を申し訳なく思います。学校としては、できる限りやれることは工夫して行うよう繰り返し会議を行い、市の基準をもとに判断しております。今年度の運動会の無観客や宿泊行事の中止などは、市の方針により全校統一となっております。変更に対する説明が不十分であったことを課題としてとらえ、今後は丁寧な説明をしていきたいと思えます。保護者・地域の皆様のご意見は、学校を見直す良い機会です。今後も学校に対し忌憚のないご意見をいただき、保護者・地域と共につくりあげる学校を目指していきます。